

全国連盟通信

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402
TEL: 03-3986-5401 FAX: 03-3986-5403
Eメール: zenkoku@njsf.net ホームページ: <http://www.njsf.net>

発行責任者 石川正三

フェアなスポーツを楽しめるよう 最善を尽くそう!!!

新年おめでとうございます。「東京2020」目前の2019年がスタートしました。

昨年は、第32回全国スポーツ祭典の取り組み本当にご苦労様でした。16競技種目のうち7種目を東北ブロックの各連盟の方々が立派に成功させました。「東北広げよう スポーツの輪」のスローガンは、東北ブロックをはじめ各地で開催された連盟のみなさんの力で立派に達成されつつあります。残る卓球年代別大会(19年3月29日、30日)とスキー競技大会(19年3月2日、3日)に最後の仕上げを期待します。

さて、今年もスポーツ連盟の53年間ブレない3つ信念を強調します。

- ①「スポーツきみが主人公」とフェアプレイにもとづき、だれもがスポーツを楽しめるようにする。
- ②「スポーツは平和とともに」をかかげ、スポーツを通じて平和な社会実現に寄与する。
- ③人間の尊厳を守り健康で文化的な生活に不可欠なスポーツ＝スポーツ権の実現をめざす。

これを誠実に実践することは、スポーツ連盟の発展にとってもスポーツ界の自律的な民主的改革にとっても、昨年以上に重要な意味を持っていると確信します。

昨年2月の平昌冬季五輪は、南北会談、米朝会談実現へとつながり、北東アジアの平和的な環境作りの案内人の役割を果たしました。また、スピードスケートの小平奈緒選手はじめ日本選手団の活躍と振る舞いは単なる勝利をこえた心に残るスポーツの価値を示してくれました。ジャカルタ・アジア大会や各種目の国際大会での日本選手団の活躍も、東京2020に向けた選手と

コーチたちの強い意欲と科学的で創造的なトレーニングの成果を生み出しつつあるように思います。

その一方で、こうした選手たちの努力の成果を台なしにする暴力事件や不祥事がスポーツ界で頻発したことを深刻に受け止める必要があると思います。ライバル選手への禁止薬物混入事件、レスリング協会の強化本部長(当時)による女子選手へのパワーハラスメント、アメリカンフットボールでの監督・コーチの悪質タックルの指示、日本ボクシング協会の公的助成金の流用と競技における不公正な判定の「強要」、アジア大会バスケットボール男子代表選手の買春行為、体操コーチの女子選手への暴力行為と体操協会幹部のパワーハラスメントの告発、大相撲、学校部活での暴力など。

「なぜこんなことが起きるのか」、「どうすればなくすことができるのか」、という厳しい社会的な批判が広がっています。こうして事態はヒューマニズムや非暴力、フェアを根本理念とするスポーツの存在意義が問われる深刻な問題です。

2019年は、東京2020がフェアで平和と友好の祭典として開催するためにも、すべてのスポーツ団体、クラブ、指導者、選手、愛好者、そして国民が垣根を越えて共同し、スポーツ界が自律的に問題の解決に取り組むことが強く求められています。私たちも自らの組織運営の改革と強化に新たな決意で取り組み共同の前進に貢献したいと考えます。

2019年 元旦
新日本スポーツ連盟会長 和食昭夫

開会で和食会長は「第32回全国スポーツ祭典は東北ブロックの尽力で7種目が東北で実施され、地元の選手・チームが活躍して盛り上がっている。不祥事が続くなか、スポーツ界全体の改革を図るには人間の尊厳とスポーツのあり方を中心に据えなければならない」と挨拶しました。各局からの報告・議論の内容は以下の通りです。

【第1回評議員会(2/9-10)にむけて】

- ・「あらためて『前進面』と『課題』を共有し、目標の実現に向けよう」という提起骨子案が論議された。
- ・「卓球協は予算をとって出前大会を行ってきた結果、組織確立につながっている」「組織拡大の目標が前面に出ると重い」「東京五輪の影響で施設確保が難しくなり、参加者が減少している」などの意見が出された。
- ・困難を抱えている組織の課題に向き合い、解決のために種目組織との懇談をすすめ、組織と会員拡大目標の実現にむけて統一的に取り組むことを確認。

【スポーツ活動・組織局】

- ・第32回全国スポーツ祭典に関して「岩手初のサッカーシニア大会に、地元3チーム参加」「空手演武会の開催は、今後に向けた一歩」「宮城で開催したテニス大会で、地元から役員が生まれた」との報告があった。
- ・「空白組織対策助成制度」の活用は組織をつくること目的であること、また「協議会が成立するための基準」の作成が必要になることが論議された。
- ・従来の「組織拡大交流会議」は、「プログレサー組織発展・世代継承推進のための交流会」として開催が提案され、評議員会で要項・日程を発表することとなった。

【スポーツ権・平和運動局】

- ・2020年「被爆75年福島ー東京ー広島ー長崎1800km反核・平和マラソン」に向けて、ランニングセンターと協力して準備していく。
- ・オリパラ都民の会は、IOC調整委員との面談で「暑さ対策、五輪経費の削減・透明化、平和と人間尊重の大会実現」を要請した。

【国際活動局】

- ・「Vivicitta」は、横浜、東京、大阪に加えて滋賀でも開催される予定。
- ・2019年、全国スキー協50周年事業でのFSGT代表の招待、神奈川・横浜駅伝でのFSGT、韓国体育市民連帯の招待への支援をする。

【広報局】

- ・「スポーツのひろば」が減っている原因は、読者の高齢

化、会員数の減少傾向が考えられ、スポーツ活動・組織局との連携や、紹介キャンペーン制度など検討する。

- ・「インターネットからの大会参加申し込みシステム」については、実用化に向けて試用実績をまとめる。

【総務局】

- ・全国事務所(東京)ビルの新しいオーナー、管理会社が決まった。事務所使用団体の財政悪化による家賃負担額低減の依頼があり、現在その対応を協議中。
- ・e-ラーニングシステムを生かすために、「リーダー養成講座テキスト」のパワーポイント化を検討。

【分担金・組織検討委員会】

- ・「分担金制度」について、各組織での現状、課題と対策案(3つ)について論議。「『分担金の二重取りでは?』という意見に対する解決策となるのか」「都道府県連盟には世話になってないという種目組織がある」「県組織がある所とない所の改善が必要では」「これまでの県と種目の関係は、活動内容と組織運営の問題」などの意見が出され、組織のあり方からも検討必要となった。
- ・「総会のあり方」については、①役員選挙、財政関係を評議員会で行う、②2日目午後の使い方を変える、③スケジュールを全体的に早める、④代議員定数上限を少なくする、の4点が提案された。「もっと抜本的に変えられないか」「報告は資料で済ませ、方針論議を中心に」などの意見が出され、引き続き検討する。

【公共スポーツ施設情報センター】

- ・各地の施設調査を促進していく。
- ・水道事業などに導入される「コンセッション方式」に近い民間委託がスポーツ施設にも出てくる懸念がある。

【スポーツ界の自律的改革をめざす取り組み】

- ・スポーツの価値を守るために、スポーツ連盟独自または関係者との共同で継続した取り組みを行うことが提案された(コメントの発表、スポーツ団体への申し入れ、討論会・シンポジウムの開催、「ひろば」企画化など)。
- ・「言いたいことを言える環境をつくっていくことが大切」「不祥事が増えることは深刻だが、声を上げる人が増えたという前進面だ」などの意見が出された。

最後に石川理事長は、「スポーツ連盟が、困難ながらも信頼を得てきたのは、“スポーツ君が主人公”を貫いて問題に対して向き合い、主体的に改善してきたから。今後も課題解決に向けて協力をお願いしたい」とまとめの発言をして、議案討議を終了しました。

スポーツ界の自律的改革をめざして

第3回理事会(文責:和食昭夫)

不祥事の克服に向けて=スポーツ連盟の使命

2018年平昌冬季五輪やアジア大会など、日本選手たちの国際舞台での活躍は、多くの国民から共感が寄せられるとともに、「2020東京」での活躍につながるよう期待が広がっています。

その一方で、選手たちの活躍とスポーツの価値を根本から損なう不祥事が頻発し、「いったいスポーツ界はどうなっているのか」という厳しい声が広がっています。そうした批判の声に応えることがすべてのスポーツ団体、クラブ、指導者、選手、愛好者に求められています。スポーツ界はいま大きな岐路を迎えています。

スポーツ界の不祥事頻発の背景には、業績や成績を優先する「勝利至上主義」に偏った競技理念、科学的で合理的な指導の軽視や公的な指導者制度の欠如、古い上下関係など非民主的な組織運営などがあることが指摘されています。こうした中で、日本柔道連盟や日本レスリング協会では指導者のパワーハラスメントの実態が明らかにされ、改善の取り組みが行われています。

しかし、そのような改革は、主に問題が起きた中央競技団体などのレベルの対策にとどまっています。不祥事を根絶するには、基本的にスポーツ界全体に民主主義と人権意識を定着していくことが必要です。スポーツ界が自律的にこうした改革の努力を尽くすことが、いま求められています。

新日本スポーツ連盟は、「スポーツは万人の権利」の主張に基づき、基本的人権のひとつとしてスポーツを国民誰もが楽しめるようにすることを最高の目的として活動する民主的スポーツ団体です。そして、プレーの場面はもちろん組織運営や社会的な場面でもフェアプレーを実践する努力を続けてきました。ひきつづき、今日の社会的要請に基づく自己改革を行いつつ、自主的で民主的なスポーツ団体として、スポーツ界全体に民主主義と人権、個人の尊厳が尊重され定着するようにするためにスポーツ連盟の真価を発揮することが強く要請されています。

国の直接的な介入は不祥事の根絶に役立つか？

スポーツ界の不祥事問題を検討してきた超党派のスポーツ議員連盟のプロジェクトチームの提言などをふまえて、スポーツ庁は2018年12月20日に「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」を発表しました(注:インテグリティ=高潔性、誠実性が維持さ

れている状態)。

その主な内容は、①スポーツ庁がスポーツ団体のガバナンスコード(スポーツ団体が遵守すべき原則・規範)を制定する、②スポーツ統括団体が加盟競技団体に対し、ガバナンスコードに適合しているかどうか審査を行い、必要に応じスポーツ庁が助言する、③「スポーツ政策推進に関する円卓会議」を設置し、その構成は、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター(JSC)、日本スポーツ協会(JSPO)、日本オリンピック委員会(JOC)、日本障がい者スポーツ協会(JPSA)とする。円卓会議は、統括団体の審査報告をチェックし、問題があれば改善を求めるなどとなっています。

このプランには以下の問題点があります。

①真にスポーツ界から不祥事を根絶するスポーツ界の自律的な改革の努力を軽視し、単に、「公金を受給するために不祥事をなくす」ための対症療法となっていることは否定できません。

②国がガバナンスコードを決定し、国が運営する円卓会議でチェックし改善要求を行うという提言は、直接的な国の介入を強化する内容となっており、スポーツ基本法第5条の「スポーツ団体の努力」を尊重する立場からも容認できません。あくまでも、スポーツ団体の自主的な努力を尊重しその活動を支援することにとどめるべきです。

スポーツの価値が輝くスポーツ界をめざし 自律的な改革の取り組みを進めよう

スポーツ連盟は、スポーツ界の不祥事の根絶を目指し、当面以下の取り組みを進めることを呼びかけます。

1、スポーツ連盟の独自のとりくみ

①不祥事問題についてのコメントの発表とスポーツ庁、スポーツ団体などへの申し入れ。

②各地での討論会・勉強会の計画。「ひろば」企画化。

③「ユネスコ憲章40周年記念シンポジウム」の実施。

2、スポーツ・体育関係者の共同のとりくみ

①「スポーツとその世界への提言=劣化への警鐘、改革への共同(仮題)」をテーマとした討論会の実施
(3月2日予定)

②有志を広く呼びかけ「スポーツフォーラム共同会議(仮称)」をつくり実行主体となる

③一過性としなない継続的な取り組みの検討

第32回全国スポーツ祭典 東北を中心に熱戦

祭典実行委員長として、登山祭典、ウォーキング祭典、シニアサッカー大会、軟式野球大会、ソフトボール大会、テニス大会に参加しました。

ウォーキング祭典では、日本三景である松島海岸を歩きました。コースが多く、時間配分も細部に渡って設定されており、役員は準備に奔走したことでしょう。全国各地から集まった大勢の参加者の熱気は凄まじく、残暑が厳しかった当日の暑さを上回る程でした。

花巻市で開催されたシニアサッカー大会はCKからのヘディングシュートや、Jリーガーか？と思わせる華麗なドリブルから得点を決める選手もおり、レベルが高い大会だと感心しました。何よりシニア世代とは思えない動きを随所に披露している選手に驚きました。

軟式野球大会は、花巻球場で開催。準決勝第二試合は地元岩手対山形の東北対決。最終7回までどちらが勝つかわからない好ゲームとなり、1点差で山形チームが決勝に進みました。決勝は拮抗した試合となり、

1-0で大阪チームが優勝しました。大阪の抑え投手の球威は素晴らしいものがありましたが、山形も9人で戦い抜き、立派な準優勝でした。

ソフトボール大会は福島県月舘町で開催。投手の球が速く、打球スピードも相当なもので迫力を感じました。年配の方も若い選手に混じって笑顔でフェアに全力プレー。これぞスポーツ連盟の真骨頂。改めてスポーツ連盟の存在意義を確認。

仙台市泉庭球場で開催されたテニス大会は、両日も比較的良い気候に恵まれました。宮城テニス協の畠山さんの働きで、ロービングアンパイアを多数派遣することができました。東北勢は、本戦の壮年ダブルスで岩手から優勝者が出ました。宮城県勢はコンソレーション（敗者同士が対戦する交流戦）の女子ダブルス、ミックスダブルスで優勝者が出ました。改めて宮城県勢の底力を目の当たりにした瞬間でした。

(第32回全国スポーツ祭典実行委員長 柿崎 勝)

種目	期日	会場	参加人数	結果など
登山	6月16～17日	宮城 栗駒山	79名	開会式で岩手・宮城内陸地震(2008年)の体験報告
水泳	9月17日	東京 東京辰巳国際水泳場	671名	団体賞ミネラルウォーターズ 東京祭典と兼ねる
ウォーキング	10月6～7日	宮城 松島海岸	182名	ゴール後、被災地(石巻市・旧大川小学校)めぐり
軟式野球	11月3～4日	岩手 花巻球場 他3球場	16チーム	オールスターズ(大阪)優勝 東北勢の健闘光る
バスケットボール	11月3～4日	愛知 名古屋市中村スポーツセンター	16チーム	月(東京)ミシュラン(京都)がV 初出場7チーム
サッカー(シニア)	11月3～4日	岩手 花巻市スポーツキャンプ村	10チーム	40歳クラスで青森チーム優勝 岩手2チーム参加
サッカー	11月10～11日	大阪 Jグリーン堺	8チーム	FC GYATORUZ(兵庫)優勝 高い競技レベル
バレーボール	11月10～11日	新潟 アオーレ長岡 他	54チーム(男子36 女子18)	女子で不正による失格処分があった
ソフトボール	11月10～11日	福島 月舘運動場	16チーム	三河Bakabomd(愛知)優勝 地元福島協会の協力
陸上競技	11月11日	神奈川 大和市スポーツセンター競技場	608名	神奈川県スポーツ祭典と兼ねて開催
ゴルフ	11月15日	埼玉 川越グリーンクロス	69名	東京、愛知、兵庫からの参加
卓球(一般の部)	11月17日～18日	岩手 奥州市総合体育館	団体戦109チーム 個人戦231人	男子個人で青森選手がV
テニス	11月17～18日	宮城 泉総合運動公園庭球場	226名	青森、秋田、岩手、山形からの出場
空手演武	11月24日	神奈川 神奈川県立武道館	28道場 148名	広島、岡山、岩手など11都府県から参加
バドミントン	12月1～2日	愛知 名古屋市長緑スポーツセンター他	198ペア	中学生から60代まで幅広い年齢層が参加
ミックスバレーボール	12月1～2日	長野 長野総合運動公園総合体育館	33チーム	Sweat(東京)優勝 長野市コンベンション助成

※2019年3月にスキー競技大会、卓球大会(年代別の部)が開催される予定です。

各地の新しい動き

「全ての人にスポーツの楽しみを広げよう」と呼びかけたスローガンのもと、10%4500人増に向かってそれぞれの種目組織や地域組織で、この一年間課題に取り組んできました。卓球協議会では、新たに群馬県、熊本県、長崎県、岐阜県に協議会が結成され石川県では協議会立ち上げに向けた準備が進んでいます。テニス協議会では、宮城県で新たに県協議会が結成され、2019年には4回の大会が予定されています。また岡山県でも協議会立ち上げに向けた練習会等を行っています。北海道も再結成に向けて動き出しています、その他ミックスバレーボールセンターでは千葉県で新たな協議会が結成、ソフトボール協では高知県で来年に8チーム加盟予定など、多くの前進面が見られました。

全国種目組織との懇談会

全国種目組織との種目懇談会を行うことを掲げておりましたが、2018年度は日程調整が難航し、実現しませんでした。来期は、未懇談の全組織と調整し順次進め、それぞれの種目組織の課題や問題について意見交換したいと考えております。

スポーツの輪が広がった全国スポーツ祭典

2018年の第32回全国スポーツ祭典は、「東北発 広げよう スポーツの輪」のスローガンのもと東北を中心に開催され、残すところスキーと卓球の2大会のみとなっております。開催地では地元の多大な応援のもと、地域での協力者が見つかるなどの新たなつながりが生まれました。まさにスポーツの輪が広がったスポーツ祭典となりました。

プロGRESS～組織発展・世代継承のための交流会～

2019年6月22日(土)に「プロGRESS～組織発展・世代継承のための交流会～」が開催されます。従来の組織拡大交流会議から名称を変え、スポーツの魅力を語り、お互いの励みとなるような内容を企画しています。

その中では目玉となるような講師を招いての講演も予定しています。スポーツ連盟の次世代を担っていく人材同士の顔合わせの場となり、組織同士の横の繋がり強化にもなるような楽しく皆が元気になるような交流会を目指しています。2019年2月の評議員会で要項案を提起します。(スポーツ活動・組織局長 宮内泰明)

2020平和マラソンにむけて

福島から東京まで平和のタスキつなぐ

2019年にスポーツ権局が重点的に取り組む課題は、まずはじめに、2020年に開催する「被爆75年福島～東京～広島～長崎1800km反核平和マラソン」の体制を整えることがあげられます。全体のコースや日程に無理がないか、福島から東京までのサポート体制をどのように整えるか、資金をどのように捻出するのかなど、課題が山積していますが、必ず成功させ、反核平和の草の根の運動に呼応する構えで準備に取り掛かります。

各地のスポーツ施設情報を集約

第2に、公共スポーツ施設情報センターの活動を支えて、スポーツ連盟が各地の公共スポーツ施設の数や広さ、利用料金等の情報を集約して、活動に生かせるように取り組めます。各都道府県連盟のご協力をお願いします。

国や自治体との交渉を展開

第3に、国や地方自治体がスポーツ基本法に則った

行政施策を展開するように、国や自治体へ交渉を展開することです。各連盟での交渉の内容を集約するのもスポーツ権局の仕事です。

だれからも支持される五輪になるように

第4は、2020年東京五輪・パラリンピックが、世界の平和や友好に資することや暑さ対策、選手村の土地の売買の不正を正すことなど、オリンピックにふさわしく、だれからも支持される五輪になるように、引き続きIOCや大会組織委員会、東京都などに市民の声を届けることなどがあげられます。

(スポーツ権・平和運動局長 萩原純一)



オリパラ都民の会は12月4日、IOC競技大会副ディレクターのピエール・デュクレイ氏と広報のロバート・ロックスパーグ氏の2者と面談、市民の声を訴えた

2019年 スキーとランニングで交流

国際活動局

種目間交流

2019年3月、全国勤労者スキー協議会・創立50周年記念事業にFSGT(フランス勤労者スポーツ・体操連盟)から3名の選手の参加が決まりました。種目間交流としては、2016年にサッカー及び卓球の代表団を派遣して以来となります。競技大会や指導員研修、石川県連盟との文化交流などを通じて、親交が深まるとともに今後の交流の展望をつかめる交流となるようサポートしていきます。

地域間交流

2019年4月、神奈川県連盟が月例川崎マラソン及び横浜駅伝に、FSGT及び韓国体育市民連帯の代表団を招待します。フランスとの関係では、ランニング部門

での相互交流計画の再構築を図る機会となります。また、FSGTの地方委員会と神奈川県連盟との地域間交流への発展の契機となるようサポートしていきます。

地域間交流

韓国やフランスの海外スポーツ事情をメールやホームページで紹介していきます。特に韓国体育市民連帯が毎週発行しているブリーフィングは国際局員が毎回翻訳し、韓国スポーツ界の「今」の情勢を知るうえで貴重な資料となっています。

また、日・仏・韓を中心に、東アジアのスポーツ関係者にも呼びかけ、「オリンピックと平和」をテーマとしたシンポジウムの開催を準備していきます。

(国際活動局長 長井健治)

スポーツ政策・オリパラ問題の追求

スポーツ科学
研究所

未来に残すべき現代スポーツの遺産は何か

2019年よりスポーツ科学研究所の活動も第3期に入ります。重点を置く今後の活動は、まず何と言っても研究所の活動の中心を担う研究会をこれまで通りに定期開催してゆくことです。第2期は、国民のスポーツ権を実現するための理論と実践に切り込むために、日本のスポーツ政策の現状分析、オリパラをめぐる問題の検討をしてきましたが、第3期も引き続きこの課題を追求したいと思います。さらには、昨期は追求できなかった課題、未来に残すべき現代スポーツの遺産は何なのかも含めて追究できればと考えます。

第9回研究会を3月23-24日に池袋周辺(会場未定)で開催する予定です。23日午後のシンポジウムのテ

マは、「東京の都市再開発とスポーツ環境整備— 2020東京オリパラに向けて—」です。都市計画研究者の岩見良太郎さんと東京都連盟理事長の萩原純一さんに報告していただくことになっています。

年報・通信の定期発行 100名の会員を目標に

また、年報『現代スポーツ研究』の年内定期発行ができるように、発行計画と投稿論文募集の早期化を進めるようにしたいと思います。以上の研究活動を円滑にするために運営委員会、編集委員会、事務局活動を計画的に進めることです。それに併せて『通信』も定期発行したいと思います。そして、研究所の研究運動を活発に進めるために、会員100名を目標に拡大を進めます。(スポーツ科学研究所事務局長 青沼裕之)

新日本スポーツ連盟機関誌「スポーツのひろば」の普及を



定価290円 年間購読3600円(送料込み)

ホームページ <http://hiroba.njsf.net>

スポーツのひろば

検索

平和マラソンに全国で1585名が参加

2018年反核・平和マラソン実施一覧

北海道	9月9日(日)	地震のため中止
宮城	7月8日(日)	ランナー 12名 サポーター 6名
千葉	7月15日(日)	ランナー 10名 サポーター 5名
東京	7月7日(土) 15日(日)	ランナー 74名 サポーター 46名
神奈川	7月7日(土) 8日(日)	ランナー 71名 サポーター 44名
富山	6月10日(日)	ランナー 12名 サポーター 4名
石川	6月10日(日) 24日(日)	ランナー 6名 自転車5名 サポーター 3名
	8月5日(日)	高温のため中止
福井	6月23日(土)	ランナー 8名
愛知	6月10日(日)	ランナー 25名 サポーター 4名
	8月5日(日)	ランナー 8名
	12月9日(日)	ランナー 320名
三重	7月1日(日)	ランナー 15名 ウォーキング20名 サポーター 14名
滋賀	8月6日(月)	ランナー 10名、総数40名(ウォーキング、ライダー、サイクリング含む)
京都	6月17日(日)	ランナー 27名 サポーター 13名
大阪	7月1日(日)	ランナー 154名 サポーター 33名
兵庫	7月8日(日)	豪雨のため中止
和歌山	5月13日(日) 27日(日)	ランナー 25名 サポーター 5名 自転車1名
	7月8日(日)	豪雨のため中止
広島	8月4日(土)	平和大好き卓球大会 324名
	8月5日(日)	碑めぐり 20名 反核平和マラソン交流のタベ 54名
	8月6日(月)	広島城公園 ランナー 38名 サポーター 4名
	8月6日(月)	「双葉の里」ピースウォーキング 13名
北九州市	7月22日(日)	ランナー 8名 サポーター 6名
広島～長崎	8月6日(月)～8日(水)	ランナー 74名、サポーター 24名



愛知・高蔵寺弾薬庫一周平和マラソン(上)
広島～長崎反核平和マラソン(下)

2018年反核・平和マラソンがすべて終了しました。今回は、16地域で実施され、トータルでランナー 897名、ウォーキング53名、サポーター 211名、その他424名の総数1585名が参加しました。引き続き、平和をアピールする運動を広げていきましょう。

災害・復興支援活動について

北海道地震

現在、北海道地震被害への支援募金の活動に取り組んでいます。スポーツ連盟の会員で5名の方が被災されていることがわかっていますが、被災地でのスポーツ復興のため、引き続きご協力をよろしくお願ひします。

[義援金受付状況] ※北海道連盟集約分を含む
452,498円 (2018年12月27日現在)

北海道地震義援金 送金先 〈郵便振替〉

口座番号 00110-1-56939
口座名義 新日本スポーツ連盟
*「北海道地震 義援金」と明記ください

西日本豪雨災害

西日本豪雨被害への義援金は、おかげさまで165万2739円のご協力をいただきました。ありがとうございます。お寄せいただいた義援金は、被災された会員や被災の復興支援に全額活用しました。なお、岡山卓球協議会では、主催する大会で募金活動を行い、39万1100円を被災者の方に渡しています。

西日本豪雨被害への義援金報告

受付 総額 165万2739円
送付・岡山卓球協議会 110万円(家屋全壊・半壊22名)
・岡山野球協議会 10万円(床下浸水2名)
・岡山県勤労者山岳連盟 25万円
(床上浸水・家屋全壊7名)
・広島県連盟 20万円(家屋全壊3名)
※残額2739円は北海道地震義援金に充当します。

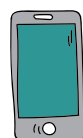
第33期全国会議及び主要事業予定一覧 (2019年1月～12月)

全国会議・事業		都道府県連盟・全国種目組織
1月	6日	新春マラソン(大阪)
	13日	新春マラソン(神奈川・愛知・和歌山・兵庫・福岡)
	20日	各組織アンケート・現勢報告メー切
	22日	評議員会出欠メー切
	24日	会計監査
2月	1日	「スポーツのひろば」3月号発行
	9～10日	33期第1回評議員会・第4回理事会
3月	1日	「スポーツのひろば」4月号発行
	1～10日	全国スキー協50周年記念ウィーク
	2日	「スポーツ界を糾す」討論会(予定)
	2～3日	全国スポーツ祭典スキー競技大会(新潟県)
	3日	全国野球協総会
	16日	東京都連盟総会
	23日	第9回研究会シンポジウム
	29～31日	全国スポーツ祭典卓球大会年代別の部(岡山県)
4月	1日	「スポーツのひろば」5月号発行
	13日	33期第5回理事会(スカイプ予定)
	26日	「スポーツのひろば」6月号発行(予定)
		ユネスコ憲章40周年記念シンポジウム(未定)
5月	5日	月例湘南マラソン500回記念レセプション
	25～26日	全国交流ウォーク(馬籠宿～妻籠宿)
6月	10日	「スポーツのひろば」7・8月号発行
	22日	プロGRESS～組織発展・世代継承のための交流会～
8月	1日	「スポーツのひろば」9月号発行
	5～6日	反核平和スポーツのつどいin広島(予定)
	24～25日	33期第6回理事会
9月	1日	「スポーツのひろば」10月号発行
	7～8日	東海ブロックセミナー(三重県・予定)
10月	1日	「スポーツのひろば」11月号発行
11月	1日	「スポーツのひろば」12月号発行
12月	7～8日	33期第6回理事会
		全国ミックスバレーボール大会(愛知県)
	14～15日	全国卓球選手権大会 一般の部(広島県)

*追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。



ホームページ
作成支援



「ホームページ(フェイスブックページ)を作りたいけど、どうすれば…」
という悩みのある組織をサポートします。
お気軽にお問い合わせください。

TEL 03-3986-5401

スポーツ連盟の スポーツ仲間の『助けあい』を! 傷害見舞金制度



行事加入型

1行事1人70円(1大会2日間まで対応)

スポーツ連盟もしくは加盟団体・クラブが主催する
競技大会等の行事で発生した傷害と特定疾病を対象
に給付が行われます。

詳しくは全国連盟 傷害見舞金係まで

給付金

死亡見舞金	(傷害)	200万円
	(特定疾病)	150万円
後遺障害見舞金 (最高)	(傷害)	200万円
	(特定疾病)	150万円
入院見舞金日額	(傷害)	3,000円
	(特定疾病)	2,000円
手術見舞金	入院日額の10倍・20倍・40倍	
通院見舞金日額	(傷害)	2,000円
	(特定疾病)	1,000円